

令和4年度

宮井小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ②言語活動を充実させ、自分の考えをわかりやすく伝える児童の育成
- ③進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 教頭	森田 範子 齊藤美智代
教諭 教務主任 新居 聡		教諭 研修主任 教諭 6年担任	大住佳代 寺本達也

校長

森田 範子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算・視写・音読などの基礎学力向上をめざし全校で取り組み、漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力の個人差が大きい。また、語彙数が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②進んで文章を読んだり、正しい文章表現で文を書いたりできる。	①ドリルやプリント、テストなどで児童の基礎的・基本的な知識・技能の習熟度を確認する。「くじゃくタイム」を活用し、定着を図る。個人の能力に応じて課題に取り組みめるようにする。 ②読み聞かせや一斉読書の時間を通して図書や新聞などに親しませ、読書活動の充実を図る。また、日記指導や作文指導を通して、正しい文章表現力を身に付けさせる。	・授業中に音読の機会を増やすなど、音声言語面でのアプローチを充実させる。	①ドリル学習や小テストの定期的実施、ワークシートの工夫などで、知識・技能の向上に一定の成果をあげることができた。また、タブレットドリルなどの活用が進み、個人差への対応の取組を、昨年度より進めることができた。 ②作文指導を通して、正しい文章表現の定着を図ってきたが、個人差は依然として大きい。辞書を引く機会や新聞記事に触れる機会を増やすなど、語彙力の向上や題材の収集力の育成を図ったが、読書意欲や文章表現力の育成に十分つながったとは言えない。	①タブレットの更なる活用を進め、個人の能力に応じて課題に取り組める環境の充実を図る。 ②引き続き学級文庫や図書室の本の充実を図ったり、本の紹介をしたりして読書量を増やす工夫を継続して行う。また、新聞の一層の活用を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えや意見を積極的に相手に伝えようとしている。 ●様々な学習場面での言語活動を通して、自分の考えを深め、相手や目的に応じて、適切に表現する力を伸ばす必要がある。また、筋道を立てて思考することが不十分である。	①自分と友達の考えを比較・検討しながら聞き、自分の考え深めることができる。 ②目的に応じて、根拠や理由を明らかにし、筋道立てて自分の思いや考えを表現することができる。	①②授業の中で、相手の意見と比べながら自分の考えを述べたり、根拠を元に自分の考えを記述したりする機会を多く設定する。 ②テーマを決めて日記や作文を書かせることで、自分の考えをまとめる機会を増やす。	・小集団での話し合いの機会を増やすなど、個々の思考の場を一層確保するよう努める。	①考えの根拠となるところに線を引かせたり、根拠を問う発問を増やしたりすることで、筋道立てて考えを表現する力の育成について、一定の成果が見られた。また、学級活動などの話し合い活動の充実を図ることで、自らの意見を表明したり、相互の意見交換を通して考えを深化させたりする力の向上が見られた。しかし、自らの考えを伝えることに苦手意識のある児童への対応には依然として課題がある。 ②日記や作文の指導、徳島県学力向上プリントの活用により、自分の考えを書く機会の充実を図った。その結果、ある程度の成果も見られたが、依然として個人差が大きい。	①②発表の話型を見直すなど、発達段階に応じた話す力を身に付けさせるよう授業改善に取り組む。また、学級活動など教育活動全般において思考・判断・表現する場の充実を図る。 ②国語の作文単元などで、作文を書く際の手順などを徹底するなど、作文指導の更なる充実を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができている。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、学年に応じて家庭学習の時間を決めていたが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	①自分から課題を見つけて、自主学習に取り組むことができる。 ②苦手の課題や家庭学習についても、自分から前向きに取り組むことができる。	①児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れる。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ②「家庭学習の手引き」にそった家庭学習を定着させ、できる喜びを感じ、様々な課題に根気よく取り組む態度の育成を図る。	・家庭との連携を深め、個々の事情に応じた支援策を行う。	①児童が協働的に学び合えるようにするために、黒板やホワイトボード、ICT機器等を授業や学校生活全般に取り入れ、学習意欲の向上にある程度つなげることができた。 ②家庭学習の目安時間を設定して取り組ませたり、手本となる学習ノートを紹介して意欲を喚起するよう努めたりした。ただ、家庭環境など個別の状況に違いがあるため、家庭との連携を一層深め、それぞれの事情に応じた取り組みを充実させることが必要である。	① MetaMoji などの ICT の更なる活用を図り、自分の課題に応じた学習に自ら取り組めるような環境作りに努める。 ②生活リズムをしっかりと確立するために家庭での日課表作りなど学習習慣が身に付くような取組を推奨するなど、学校でできる限りの支援を行い、家庭との連携を一層強化する。

